

令和 6 年度

経済福祉常任委員会会議録

令和 7 年 1 月 3 0 日

福 島 町 議 会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和6年度

経済福祉常任委員会

令和7年1月30日（木曜日）第1号

◎案件

- ・調査事件14 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況について

◎出席委員（5名）

委員長	佐藤孝男	副委員長	小鹿昭義
委員	平沼昌平	委員	平野隆雄
委員	溝部幸基		

◎欠席委員（0名）

◎委員外議員（2名）

議員	藤山大	議員	熊野茂夫
----	-----	----	------

◎出席説明員

町長	鳴海清春	副町長	小鹿一彦
産業課長	福原貴之	産業課長補佐	中村伸也
指導普及係長	川合力哉		

◎職務のため議場に出席した議会事務局職員

議会事務局長	鍋谷浩行	議会事務局議事係長	山下貴義
議会事務局議事係	角谷里紗		

○委員長(佐藤孝男)

おはようございます。

ただいまから経済福祉常任委員会を開会いたします。

本日の調査事件は、調査事件14「岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況について」であり、資料等は皆様のお手元に配布のとおりでございますので、ご了承願います。

申し出により、町長のあいさつを行います。

鳴海町長。

○町長(鳴海清春)

改めまして、おはようございます。

経済福祉常任委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、経済福祉常任委員会にご出席をいただき誠にありがとうございます。

本日は、調査事件14岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についての調査となっております。

まず、1点目の岩部地区等活性化についてですが、町では平成28年11月に新たなまちづくりを担う組織として、町内の有志などと共に福島町まちづくり工房を設立し、令和元年から本格的に「青の洞窟」を巡る岩部クルーズの運航を開始してございます。

開始早々コロナ禍と重なるなどの困難もありましたが、GoToエラベルなどのコロナ禍を逆手に取るなど大胆な発想により困難を乗り越え、運航から6年目を迎え、福島町の新たな観光として着実に定着してきております。

町では、松前矢越道立自然公園に指定されている岩部地区の潜在的な地域資源を更に高め、岩部クルーズなどで岩部を訪れる方々などの岩部地区の更なる交流人口の増加を図る目的で、福島町岩部地区等活性化基本構想を策定してございます。

今後は、先般の当委員会での意見等も踏まえ、また、商工会や観光協会などの関係団体と連携を図りながら、今年度から当基本構想の計画的な事業の推進を図ることとしてございます。

次に、2点目の昆布養殖作業省力化に向けた取組についてですが、昆布養殖漁業は浜の主力産業であり、令和6年の生産額は8億3千万円となっており、前年対比で2億3千万円ほど増加しており、事業者も世代交代が進み着実に若い着業者が増えてございます。

しかし、人口減少に伴い、6月以降の盛漁期の作業員の確保が課題となっており、町では課題の解消に向けた対応を求められているところでございます。

町ではこのような状況を踏まえ、次の時代を担う若い漁業者を中心に昆布養殖省力化検討計画を策定し、問題意識を共有するとともに、作業の省力化及び効率化並びに共同化に向けた第一歩となることを期待し、問題提起をしてきたところでございます。

今後の事業化に向けた取組を進めてまいりたいと考えてございますので、ご理解をお願いするものでございます。

このあと担当者から資料の内容を詳しく説明させていただきますので、よろしくご審議くださるようお願いをいたしたいと思っております。

最後に、1月25日未明に岩部地区で発生した火災により2件の方の住宅が損傷してございます。

幸い、人的な被害はありませんでしたが、火災に遭われた方々に改めてお見舞いを申し上げたいと思っております。

なお、町では、被災に遭われた方々に対して見舞金を支給するとともに、住宅の手当てなど迅速な生活支援を行っていることについてご報告をさせていただきたいと思っております。

以上、簡単ではありますが、経済福祉常任委員会の開催にあたりまして、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうかよろしくお願いをいたします。

○委員長(佐藤孝男)

町長のあいさつを終わります。

これより、調査事件に入りますが、まず調査の方法について説明をいたします。

最初に、資料の説明を受け、「不明な点や疑問な点」についての説明員に対する質疑を行います。

質疑が終了した段階で、調査内容について説明員と意見交換を行います。意見交換が終了後、説明員には退席をしていただき、休憩を取り、休憩中に論点・争点の整理を行い、概ねその整理した事項に基づき、委員間の意見交換や討議を行います。

その後、最終的な委員会意見のまとめをし、議長に提出することになります。

以上、調査の方法等を説明しましたが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

それでは、調査事件 1 4 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についての調査に入りますが、あらかじめ調査内容について、簡単に説明いたします。

町は、令和 5 年度に岩部地区等有する地域資源の魅力を活用し、更なる交流人口の創出に向けた「岩部地区等活性化基本構想」と、昆布養殖漁業における課題解決に向けた「昆布養殖作業省力化検討計画」をそれぞれ策定しており、「岩部地区等活性化基本構想」については、令和 6 年度において、策定された構想の中から優先順位を付した上で計画的に進めるとしております。

この度、町より、当該構想及び計画の令和 6 年度の取り組み状況について資料が示されましたので、本日はその内容を調査するものです。

それでは、調査事件 1 4 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についてを議題といたします。

説明員から資料の説明を求めます。

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

それでは、資料の 3 ページをお願いします。

調査事件 1 4 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況について。

I 岩部地区等活性化計画の推進について。

町では、令和 5 年度に策定した「岩部地区等活性化基本構想」の推進を図るため、先の経済福祉常任委員会での意見も踏まえ、福島町商工会及び福島町観光協会並びに（一社）福島町まちづくり工房などをメンバーとした「岩部地区等活性化推進ワーキンググループ」を設立し、本構想に係る具体的な方策を協議しております。

また、地元である岩部町内会の石川会長へ当計画の概要を説明し、事業計画の推進に理解をいただいているところでもあります。

1、岩部地区等活性化推進ワーキンググループの設立について。

令和 6 年 7 月 22 日に、岩部地区等活性化基本構想の具体的な展望や推進計画などについて情報共有や意見聴取を行うため、ワーキンググループを立ち上げております。構成メンバーは商工会、観光協会、工房並びに町産業課の職員に加え、オブザーバーとして㈱開発工営社に参画をいただいております。

（1）ワーキング会議の開催状況について。

第 1 回目につきましては、7 月 22 日に「設立の趣旨及び事業展望について」、10 名の参加により開催しております。

第 2 回目としては、11 月 22 日に開催しており、新たな観光資源となる探索ルートの開拓、これについては 5 名の参加となっております。

（2）第 1 回ワーキング会議の開催概要について。

第 1 回の会議においては、同基本構想の策定を受託した㈱開発工営社の担当者から「岩部地区等活性化基本構想」の説明を受け、岩部地区の「山」「川」「海」の手つかずの自然を最大限に活用すべく、現実的に開発可能なエリアの確認と情報の共有を行っております。

具体的には、すでにある建物・設備を活用する視点に立ち、構想具現化の第一段階として、「交流センターを中心とした管理エリアの整備」、「河川の整備」及び「岩部展望台の整備」の 3 つの案を挙げ、整備の可否や優先性について協議しております。

各委員からは多様な意見が出されましたが、3 つの案のうち、河川の整備については、国や道との許可

関係、事業規模や予算の膨張が懸念され、整備に時間や費用を要すると判断し、第一段階としては、「交流センターを中心とする管理エリアの整備」及び「岩部展望台の整備」を優先することとしております。

また、本会議では、「キャンプ場の整備」についても協議しており、グランピングが可能なトレーラーハウスを岩部地区に整備する案がありましたが、利用する土地の確保やトレーラーハウスの新規整備に係る費用といった問題に加え、ヒグマ等への対策に万全を期す必要もあり、そのための意見を専門家から聴取するにあたっては、複数台の自動カメラの設置などで生息・出没状況を把握した資料が必要となることから、現段階では優先順位を上位に設定せず、今後の検討事項として先送りしております。

なお、吉岡温泉跡地を利用したキャンプ場の整備についても、現在、旧吉岡温泉施設は、コンブ加工業者に倉庫として貸付し利用いただいていることもあり、当面は、現状の施設を維持した管理を進めることとし、キャンプ場の整備を検討する段階に入りましたら、近隣住民との意見交換を開催し、整備の可否について決定することとしております。

（３）第２回ワーキング会議の開催概要について。

第２回ワーキング会議では、岩部地区の観光資源の開拓を目的として、令和６年１１月２２日に（株）開発工営社の担当者及び工房職員とともに、岩部岳付近の散策ルートの調査を行っております。

調査は、岩部地区交流センターから北へ進み、岩部岳の中腹まで進行した後、東へ尾根伝いに進み、クルーズ船で迎えに来ることが可能なタタミ川の河口付近までを目指すルートとしました。

ルートを実際に確認したところ、足場が悪く、傾斜がきつく直立が困難な状態もあり、また、比較的傾斜が緩やかな尾根でさえも足場が狭く、人がすれ違うのが困難な状況で、登山初心者が多い観光客や子供連れ向けの開発はかなり厳しいとの判断に至っております。

２、岩部クルーズの運航について。

岩部クルーズの魅力をさらに高めるためには、乗船前後の滞在時間及びアクティビティの創出など、クルーズ船以外の体験ができる仕組みづくりが重要と捉えております。

ハード整備以外にソフト事業として展開が容易となる体験プログラムについては、工房と連携を図り観光で訪れる方のニーズを的確に捉え、クルーズとの相乗効果が図られるよう取り組んでまいります。

クルーズ船運航ダイヤの見直しについては、開業から２年間は１日３便での運航となっております。

ただ、第１便が午前８時と遠方の利用者には早い時間帯となったことから利用が少ないなどが課題となり、令和３年度から第１便を９時からの出航に変更しております。また、時間短縮とともに天候状況に応じて、１日第４便目の臨時便の対応を始めております。

現在の岩部クルーズ船の予約者の８割強が前日に函館市内に宿泊して旅行を楽しむスタイルとなっており、当日の朝に福島町へ来町されるお客様が多い状況にあります。

３、今後の事業の方向性について。

町では、ワーキング会議の検討や現地調査を踏まえ、来年度から事業計画の推進に向けた作業を進めることとしております。

まず、「岩部展望台の整備」については、過去に展望台や遊歩道が整備されており、再整備は必要であるものの、岩部地区交流センターからの距離が近いことから、岩部クルーズの観光客や町民が訪れやすく、また、岩部海岸の新しいビュースポットとして景色を一望できる散策コースの整備が可能であるため、予算の規模を鑑みても、実現性が高いと判断しております。

来年度は、岩部展望台への遊歩道の整備に向けた作業として、地権者への承諾に加え、展望台付近は保安林に指定されていることから、ルート整備に係る樹木の枝落とし等の協議を進め、関係者等の承諾を得た後に予算措置を行うなど、新たな観光資源として整備を進めてまいります。

また、管理エリアの整備にあたっては、まず、岩部地区交流センターや観光客が訪れるエリアの拡大を図るため、交流センター背後に位置する民家２棟を買収及び改修等を行い、売店や休憩室などの多目的施設として整備することを検討しており、財産所有者との交渉を行っております。

財産所有者からは、岩部地区の活性化事業に対する内容はご理解いただいておりますが、相続が容易でない旨の回答を得ております。

相続登記等の手続きには時間を要すことから、相続等の支援をしながら引き続き交渉を進めることとしております。

なお、河川の水辺環境の整備やキャンプ場整備などについては、引き続きワーキンググループで協議を

進め、岩部地区に来て良かったと思っていただける地域づくりに努めてまいります。

次に、7ページをお願いします。

Ⅱ 昆布養殖作業省力化に向けた取り組み状況について。

1、これまでの経緯について。

令和6年2月6日開催の当常任委員会において、「コンブ養殖作業省力化検討計画」について、検討計画の策定状況や今後の方向性について説明したところです。

養殖昆布漁業者の多くが課題と上げている「ヒドロゾア」付着対策については、当常任委員会からは「情報を積極的に収集し検討すること」と意見をいただいております。令和6年度では水産技術普及指導所と連携し、情報収集に努めるとともに成熟誘導の可能性等の調査を進めております。

成熟誘導の可能性調査については、天然昆布の母藻確保が重要であります。今年度は母藻の確保が厳しい状況となったため、試験を断念しております。引き続き、海水温上昇による昆布の生育対策として様々な取組を模索してまいります。

2、養殖昆布漁業者の経営体数及び水揚げ状況について。

養殖昆布漁業は、高齢化により廃業する漁業者はおりますが、家族内での世代交代や新規着業者等の加入により近年の経営体数に大きな増減はなく、比較的安定的な着業者数で推移しております。

また、福島町内に設置している養殖昆布用ブロック設置については、現在、福島地区、吉岡地区ともに設置施設の空きがない状況で生産されております。

養殖昆布の生産状況はここ数年安定しており、令和6年は天然昆布の不漁を受けて、価格が高値で推移したこともあり、大幅な増収となっております。

なお、経営体数及び水揚げ状況は、次の表のようになっております。

養殖昆布経営体数につきましては、令和6年度では吉岡地区で33名、福島地区26名、生昆布として北海シーウィードに出荷している方が6名、計65名の養殖昆布事業者となっております。

次に、養殖昆布の生産数量及び金額についてでございます。

令和6年度では取扱数691トン、取扱金額につきましては8億3,002万8千円となっております。

3、昆布乾燥試験機実証試験の参加。

令和6年7月24日に(株)北海シーウィードの昆布加工施設において、北海道庁が主催する「昆布乾燥試験機実証試験」が開催され、当町の養殖昆布漁業者12名の参加により、ICT技術を活用した昆布乾燥機の実用性等を見学しております。

参加した漁業者からの意見は、1つ目としましては1日の水揚げ量は、1番切りで1,500枚から2,000枚以上になるため、施設規模を大きくする必要がある。大量に乾燥させるには、現状の台車式の作業が有効である。乾燥にバラつきがある。個人漁業者としては、設備導入は非現実的である。良い設備ではあるが、まだ実用的ではない。などの意見があり、漁業者からは上記のような意見が出され、協業化設備として導入しても、一日あたりの乾燥処理量を考えると、昆布漁家の乾燥を賄うには、施設規模を拡大する必要もあり課題が残るとの意見があり、また、乾燥機の導入に対する費用対効果が得られないという結果となりました。

北海道では、「ICT技術等を活用した昆布生産対策」を進めており、道内で課題となっている昆布生産の取り組みに注視するとともに、町は、当町における陸上作業の人手不足などの問題等を漁業者の視点で地元意見として道庁へ要望し、作業の効率化等の解決策等を引き続き取り組んでまいります。

4、養殖昆布青年部との打合せ会議の実施。

町は、令和6年1月15日に、養殖昆布漁業に従事している漁協青年部員との意見交換会を開催し、親の代の生産方法から転換し、新たに効率的な生産方法へシフトすることに関して、多くの青年部員が興味を示している状況を把握することができましたので、引き続き、今年度においても養殖昆布が本格化する前の2月頃に改めて意見交換を開催することとしております。

個別での意見交換では、法人化の必要性を示している若手漁業者もいることから、町においても法人化へ向けた対策や手法等に関し、関係団体と連携し支援してまいります。

また、クミアイ化学工業株式会社との連携事業により実施している溶融スラグによる藻場造成実証試験について、養殖昆布福島青年部の5名の漁業者の協力をいただき、福島地区で塩釜沖及び白符沖において

7キログラム入りスラグを養殖昆布の養成綱へ設置し、成長の比較試験を行っております。今後、養殖昆布の間引き前の3月中旬、収穫前の6月中旬、収穫終了直前の8月に成長等の検証を行うこととしております。

5、共同利用施設の整備による品質向上及び作業効率化について。

福島町内の昆布製品については、入札方式及び随意契約方式により契約され、昆布の出荷は、福島地区、吉岡地区それぞれ週1回、日程を決めて2日間で行っております。このため、漁業者は集荷日に合わせた製品づくりを行っておりますが、製品の保管場所に苦慮している現状にあります。

このようなことから、漁業者及び漁協から共同利用できる保管施設の整備について強く要望されており、今後、養殖昆布漁業者の効率的な作業に有効的な共同利用施設の整備が求められております。

共同利用施設には、空調設備機能を備えた製品保管場所を確保することで、漁業者は集荷日を気にせず製品づくりをすることができます。

製品運搬についても、現在は、漁協職員と水産物検査協会職員、漁業者代表がそれぞれの漁家を回り集荷しておりますが、施設が整備されることにより各漁家を回ることなく集荷は1日で終わり、品質状態が良い製品を効率的に出荷できることによる付加価値の創出に加え、環境に優しい取り組みにも寄与することができます。

また、天然昆布やワカメの製品づくりは、福島漁港にある中央倉庫施設で行っておりますが、当該施設は老朽化が進んでいることから、新たな施設の整備は衛生面や製品の保管場所の改善にも繋がります。

町では、このような状況を考慮し、施設整備に向けた協議を令和7年度から福島吉岡漁業協同組合及び関係漁業者と進めてまいります。

6、今後の取り組みについて。

養殖昆布漁業は、町の水産業の根幹をなす重要な産業であり、町では、引き続き漁業者の意見や要望を的確に捉え、漁業協同組合と現状の認識を共有したうえで、北海道や研究機関等との連携を図り進めてまいります。

なお、この度の調査において、若い漁業者を中心に将来に向けた省力化や協業化の必要性の認識について情報共有することができましたので、将来を見据え昆布生産の安定とともに作業効率の向上に向けた仕組みづくりを引続き支援してまいります。

よろしくご審議のほどお願いします。

○委員長（佐藤孝男）

内容の説明が終わりましたので、質疑を行います。

冒頭申し上げましたように、質疑は、不明な点や疑問な点の質疑といたします。

説明員との意見交換は後ほど別に時間を設けておりますので、どうぞご協力をお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

7ページの養殖昆布経営体数とありますが、令和6年は吉岡で1軒減っているんですよね。だから、33ではなくて32になるはずです。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

この数字につきましては、漁協からの各生産部会の名簿を基に作成しておりますので、途中で年度切り替わっている時に、辞められた方がいたかもしれませんが、令和6年当初の数字として捉えていただければと思います。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

それと9ページの共同利用施設の件でお聞きしますが、これって新しく建てるということですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

想定はそうのように考えておりまして、今、先ほど説明したなかで福島漁港の中央倉庫という部分、旧奈良スタンドさんの裏に古い倉庫があります。それと、その漁港側には製氷施設今は稼働しておりませんが、その製氷施設があります。そこら辺を一体で整備できることを今後、漁協と漁業者とともに検討を進めてまいりたいという認識でございます。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

それって福島地区だけですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

もちろん昆布養殖漁業者すべての部分となっております、用地的にも福島漁港の用地が、一番用地として確保しやすい場所だということで福島地区も吉岡地区も一体となった利用施設となる見込みで検討します。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

それって昆布の養殖だけやるという、利用するということでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

そのとおりでペーパーにも記載しておりますが、養殖昆布の作業の省力化という部分が第一の目的になってございます。

それに合わせて、既存の天然昆布・ワカメもそこで製品管理しているという部分、作業しているということもありますので、そこら辺もできるような施設、要は海藻類を扱えるような施設という部分を協議していければなと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

3ページの岩部地区等活性化推進ワーキンググループの活動というか考え方についてお聞きしたいと思います。

この委員の方々大変ご苦労されて色々提案されてきていると思うんですけども、そもそも岩部地区の地区として、今回火災起こされて大変気の毒な思いをしたような状況の中で、岩部地区の地区を活用した活性化というもののメリット・デメリットについては町としてどのように考えていますか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

私どものメリットの部分につきましては、今、町の一番の観光の目玉となります岩部クルーズ、ここを核とした横の展開という部分で滞在時間の確保そういう部分と、滞在していただくことによって町にも経済効果をもたらしていただくような仕組みづくりという部分で、メリットとしては考えてございます。

デメリットとしますと、やっぱり自然という部分が大きい状況にありますから、自然をあまり壊さないような整備という部分もありますが、やっぱり事業費が膨大に掛かるという部分がデメリットだと考えておりまして、その部分についてはできることから優先順位をつけてという部分を考えております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

あくまでもその事業を推進する意味での岩部地区のメリット・デメリットについて今お話しされてますが、もちろんそれが福島町にとってはこれから必要な対応だと思いますけれども、その地区全体に全国的に考えると、一応岩部地区はルートがはっきりしてまして、出入りトンネル越えるか海から来るか山越えるか、これしかないわけですから管理状況としては一番いいんでしょうけども、私の言いたいのは、変な人が来たらどうするんだということなんですよね。例えば外国人なり何なりが今移住対策なり何なりをした時に、町で対応できるのかなというところ辺なんですよね。

観光推進について回るのは、いつもわけのわからない所から来る人で、本当に町の魅力を感じてくるのか、経費が安いから入ってくるのか、そういうところ辺で検討していかなくやなんないと思うんですよね。

今、岩部地区の場合は2世帯の町内会長さんの家入って2世帯の方が住んでおりますけども、全くこの岩部地区を守っていただいているという感覚ですよね。

それで、課長は住民の方という言い方しますけども、住民の方としてはその2世帯の方があたると思うんですけども、その方々にやはり地区を守ってもらっているという感覚を前段で言った不法移民じゃないですけども、招かざる者が来た時の対応というのが、やはり一番懸念されるものだと思うんですね。

町内会のルールというものが成り立たなくなっていくという状況の中も考えられるわけですから、そこら辺の持って行き方というのは町としてどういう風に、そういうのもどういう風に考えているのか。それがデメリットになると思うんですよね。どうですか。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿一彦副町長。

○副町長（小鹿一彦）

ただいまの質問ですけども、町長の冒頭あいさつにもありましたように先週火事があった、元々2世帯3人しかいない地区でございましたけども、先週、火災のあと直ぐ住まいの手配だとか色々、その被害に遭われた方々のサポートした中で、当初2世帯の方はいずれはまた戻りたいんだという話でございましたけども、先日町長もお見舞いに行った際には、やはり今は一旦、1世帯は息子さんの所、もう1世帯は町営住宅に入っていますけども、確認したら、もう戻らないのかなというような、戻れないのかなと言っていました。

それです、今平沼委員からあったように、これから懸念されることが、まず、ひとけがなくなること、人がいなくなるということは防犯対策ですね、誰もいない地区になってしまうとまだ空家も残ってますし、そういうなかでもう一点がですね、ひとけがないことによって動物だとかシカ・クマの出没も増えてくるのかなと。それと、これから春にかけてあの地区は釣り人が凄く来る地区なんです。それで町外からも来ますので、ちょっとそこが防犯とそういう鳥獣対策とかが懸念されてきますので、そして、ゴールデンウィークになると岩部クルーズもスタートするというので、今交流センターもありますので、ただ、うちが一番重視しているのは奥にも岩部の浄水場もありますので、少しそのどういう対策がいいのかということで平沼委員おっしゃるように、その辺が今町として懸念デメリットとしてあるということで今後検討が必要かと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

遅かれ早かれそういう風になってくると思います。ですから、これからじゃなくて今考えなくやなんないことだと思うんですね。こういう事案が発生して、から、だからということじゃないですけども、やっぱり町内会とはいうものの、本当に町内会の活動が一般の町内会と同じで出来上がっているかという、決してそうではないという状況をやはり考えて、岩部地区の活性化というものはこれから考えていかなくやなんないとは私は思うんです。

そのなかで、この文章の中に、やはり河川の整備には国と道の許認可がこれから時間がかかること書いてますけども、実際にどのような計画をするために、どういう構想があって、どういう風にしたいがために道と国の許可に時間とお金がかかるのか。そこら辺がこの文章に書いていないので、もうちょっと詳細を詳しく教えていただければいいかな。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

河川の件についてです。岩部の川の走る河川の部分については、一部は砂防的な整備しているところもありながら、砂防要素がある部分、普通河川ではありますけど砂防の道の事業として砂防事業はしていただいております。

今、岩部の川見ていただくと分かる通り、結構土砂とかが堆積して木や草とかも生い茂っているような状況。ここをまずは綺麗にするという分が一つの景観的なものもそうですし、そういう来ていただいた方に不快を与えないという部分。それと、河川で何をしたかったかという子ども達も大人も子供も来ていただくなかで河川の下まで下りて行って遊べるような状況も作っていく。道路から階段式でもいいんですけど、河川の方に下りて行くそういう部分が出来ないかという部分で、当初、基本構想つくる段階には我々の方でもそういう思いをコンサルの方にもお伝えさせていただいて現在に至っている状況です。

ただ、やっぱり河川法であつたりとか色んな法律もあるので、建設管理部との方とも若干の頭出しはしているものの、各色んな機関と協議は必要ではないかという部分で私どもについては優先順位を今落としているという状況になってございます。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

この3つの案があるわけなんですけれども、優先順位として展望台をそっちを優先させるという考えは分かるんですけども、私はまずどうなんだろう、話し合う場を先に設けて行った方が早いんじゃないかなと思うんですよ。ただ、こっちの方の考え方で無理だろうとか何とかじゃなくて、一回でも二回でも建設管理部なり道のあれなりその担当課と協議した経緯があつてこれがあるのであれば分かるんですけども、これから時間掛かるとか協議するのにどうなんだろうという感じが、いつまで経っても具現化されないような感じがするんですけど、どうですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

そのとおりで、我々、机上の中で当然許可が必要だから遅くなるだろうという部分書かせてもらったんですけど、そうは言ってもやっぱり委員おっしゃるとおり、まずは管理する機関ともしっかり協議するという部分は大事なことで我々も捉えておりまして、これも後先になりますけど2月に入ったら建設管理部の方にまずは照会する又は関係する林務課の方に相談するだとかそういう部分で2月に入ったら来年度に向けた下準備として関係機関と協議の場を設けていくという認識では思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

あとでゆっくりやりたいなと思うんですけども、昆布養殖についてですけども、確かに順調に後継ぎも来てやっているんですけども、何か我々の考え方、町の考え方、これからだんだん人数が少なくなってくるので集約したなかで、より良い水揚げ量を確保するための施策の一つとして今この省力化を検討しているということによろしいんですよ。

それが、私はちょっと今の昆布養殖に携わっている方々の意識と、今我々の心配している考え方がまだ時間的な差が少しあるような気がするんですね。だから、やっているうちらというか町がやってくださっているその考え方というのは、決してその間違った方向に進んでいるんじゃないくて、ちょっと流れが早過ぎるのかなと。少し漁業者のことを心配して下さって早過ぎる考え方はいいんですけども、実際に事業に携わっている方のあれと、その若い方々の考えとタイム的なズレというか町の方の考え方が少し集約し過ぎてるように漁業者の方から見れば思われるような気がするんですけども、話し合いの中でどういような意識的なものというか漁業者の若い方々の、本当に若い方々の方が理解して下さってもいいような感じがするんですけども、そこら辺の空気感というか話し合いはどのような感じだったんですかね。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

意見交換につきましては、昨年度作りました基本構想の中で世代別というか地区も分けながら、年配の方の吉岡地区、福島地区だとか若い方々の青年部の福島地区・吉岡地区とかという分類、それと、全体的な集まりという部分でそういう部分で各協議の場を設けて声をまとめた状況となっております、やっぱりこれまで長く昆布に従事してきたベテランの方々は、やっぱり今さら既存のものを変えることっていうのはなかなか厳しい。そこでなんとなく壁があるような感じで、現状で仕方ないんだ的な捉え方もされているような方も多くなります。逆に言うと、福島地区の若い昆布の漁業者については、しっかり親から世代交代して主となってやっている事業者もここ最近増えてきてまして、その方々もやっぱり問題意識というものをしっかり捉えながら昆布養殖に従事していただいていると。

それについては、やっぱり海の作業についてはそれぞれの親方としてやらなきゃいけないんでしょうけど、上がってからの仕事というのは様々な効率化的なもの、ペーパーにも書いてますけど法人化だったりとかその組織を作るだとかという部分についても、何か今までと違う我々のその基本構想もいい影響にもたらしているのか定かではありませんけど、やっぱりその問題意識という部分は若い方がしっかり持ってくれているのかなという部分で会話させていただいています。

ただ、ベテランと若い人方の温度差という部分はやっぱり埋まっていないのかなという部分は現状で、これからやっぱり協議は話し合いは十二分にしていく必要があるんだなと認識しております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

9ページのクミアイ化学さんの連携事業ということで、これは藻場造成に溶融スラグをロープに繋ぐということなののでしょうか。これは繋ぐということなんですか。わかりました。

これを繋いでロープに生育させて、それで生産していくという流れのものなんのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

養成綱に7キログラム入りの土嚢みたいな袋を結びつけて、そこで養分が出て昆布がどう成長するのかという実証試験をやりたいなど。答えはどうか、成長していただければそれはそれで成熟誘導もありますけど、早期に収穫できることによってヒドロゾアの付着も抑えられる可能性もあるかそういう部分とか、あとは成長が良くなって実入りも良くなる、そういう部分になるのかどうかという部分はやっぱりクミアイ化学さんとの話しの中では、そういう可能性があるねという部分の中で今チャレンジさせてもらっています。なので、もしかしてその一部の部分で養成綱に設置している部分と設置していない部分、そこをしっかりと検証見極めるという部分をしていますので、この8月くらいまでに成果がどんな感じになるのかなという部分は出てくるのかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平野委員。

○委員（平野隆雄）

10ページの昆布関係のことですけども、真ん中ら辺に「福島漁港にある中央倉庫施設」先ほど小鹿議員とのやり取りもあったようですけども、この施設はかなり昔と言いますか我々小さい頃からのものでなかったかなと思うんです。

その横に冷蔵庫もありましたよね。そういう風なものもプラスするとかなりの面積になるけども、そういう風なことはこのとおり物価の高騰からなりから高いわけですから、どの程度のものに予定しているのかどうなのか分かりますか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

面積的なものは今どれくらい、既存の中央倉庫と同等とかそういう部分は具体的にまだ協議してませんが、やっぱり漁協さんと予算とか色んな総合計画とかの打合せするにあたっては、やっぱりあそこの部分老朽化している又は今おっしゃられた製氷冷蔵庫とかも今は使っていないよと。その部分はうまく解体

しながら新たなものに行くという部分をどう作りあげていけるかという部分は漁協さんとも協議してまして、入れるものは先ほど小鹿議員の方にも言ったとおり昆布という部分が主力になるのかなと思います。

今の昆布養殖ブロックの基数が入れるような大きさの建物は準備する必要があるんじゃないかと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

何点が伺います。

まずは、4ページの第2回ワーキンググループの会議の関係ですが、岩部側から岩部だけをルートにしてキャンプ地の場所に行くというルートで確認したということですが、私も30代ぐらいの時に何回か岩部から直接行った経験があるんですけども、そのルートとちょっと違うのかなと思うので、距離とそれから時間どのぐらいかかるようなルートなのか。もし、かつてはキャンプ地から岩部にというルートもう少し近いルートだと思うのですが、そういう状況なんかは調べている経緯があるのかどうかもお聞かせください。

○委員長（佐藤孝男）

中村産業課課長補佐。

○産業課長補佐（中村伸也）

今のご質問ですけども、私この第2回ワーキンググループでタタミの直前まで直接歩いたんですけども、すみません、距離が何キロぐらいあったかまでは詳しい資料持ってきていないので分からないんですけども、時間的には岩部のクルーズの事務所の所から大体片道3.5時間だったんですけども、3.5時間かけてタタミの川の河原の直前までしか行けなかったんですよ。事前に開発工営社の方がGPS等を使いながら一番効率のいいルートということで出してはいただいたんですけども、タタミの川の直前で大きな崖みたいな所がありまして、川の音がするんですけども、その先行けないよというところだったのでここに書かせもらったとおり、普通の観光客の方とか軽装で気軽に歩くというには陰しいなと。その途中までの頂上というか尾根までの部分も傾斜厳しいですし、上に上がってからも凄い足場が崩落しているような状況の場所があったりだとか、岩肌歩くという風な部分があったものですから、本来であればこの部分でタタミの部分までという風なので歩いて、そこで船で迎えに来るという一つのアクティビティということで考えて第2回ワーキンググループ行ったんですけども、ちょっと厳しいなというような状況になったというものになります。長くなってすみません。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

5ページの今後の事業の方向性の部分で、岩部展望台の整備の関係ですね。

これは、前は新たにそこを作って対応して、もう使わなくなってからだいぶ経つんですけども、たぶん最初に建設と言いますか作った段階の資料等もあるんだという風に思うんですが、その段階で当然その地権者とかの状況とか把握されているという風に思うのですが、その当時の資料というのは当然あるんですか。確認はしてますか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

当時の資料については私も探しては見たものの、やっぱり大分古い資料だったものですから探しきることとはできませんでした。

それでルートにつきましては、現道は大昔であれば町道という部分で管理されている状況だったもので、その現道はありますよと。その道を通って行けば一番町のものですからいいんでしょうけど、やっぱり崩落を回避しながら行くという部分は、もしかすると民有地を邪魔する場合もあるかという部分で、その分もピンポイントでは掴んでおりますけど、その交渉という部分はしてございまして、極力は町が所有する町有地を通して行く道をまず探っていきたいなという部分で今は考えております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

この文章の中に地権者との対応というようなことで書いてあるんですけども、その展望台へ行く町道中心の周辺の状況の地権者の状況は把握しているということでもいいですね。

確認まではなかなか難しいと思うのですが、登記上の部分の確認はされているということでもいいですね。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

議長おっしゃるとおり、ルートの町有地の周りの部分の所有者は特定してございます。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

それと昆布の作業省力化の関係ですが、7ページ下段に昆布経営体数ということで書いてあるんですけども、この下の方に書いてある廃業や継承、新規着業等この内訳が何もないので、その動向、前も際に話したのはそういう状況を把握して、併せてこの待機者といいますか希望する方がどのくらい居るかということを確認するということが大事なのかなという風に思うのですが、そのことを前の委員会で話し、その辺の内容を把握しておくべきではないかなということと言ったんですが、その状況はわからないということなのか。分からないこと無いという風に思うので、遡って何年までもということでもなくとも、ここ2、3年の状況というのは当然わかるんだと思うのですが、どうですか。

○委員長（佐藤孝男）

川合力哉産業課指導普及係長。

○産業課指導普及係長（川合力哉）

委員のご質問ですけども、当然、新規着業者の年齢、担い手の事業を使ったりしますので、その新規着業者の年齢と辞めていく人何歳でなったら辞めていくかというデータは取っております。が、取っておりますけども、ちょっとそのデータは今日持ってきてませんので、改めて報告したいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

前の委員会の段階で昆布業者の部会が吉岡の方は1つなんですが、福島の方がいくつかに分かれている状況。その辺を何とか今後のことを考えて、まとめていく方向性みたいなもので検討するというかそういう方向性で対応するべきだということを報告書の中にも書いて対応したんですが、現況はなかなか難しいのは分かるんですが、その集荷の関係で、新たに将来的には特にその若い人方についてはまとめて行かざるを得ないという方向性なんですが、現況で吉岡が1つと福島側の方が3つぐらいになっているんですけども、集荷の際の状況というのは別々のものもまとめて対応するという形で対応しているのか、吉岡あるいは福島の3つのものを3つに分けて対応するという処理をしているのか、現況をそれを教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

部会につきましては、議長おっしゃるとおり福島の方で3つあるんですけども、なかなか思いがあつてくつついたり離れたりしている部分ありますので、なかなか私達の方から一つにという部分は申し上げることもできないという分は思っておりますが、ただ、これから共同化という部分が進んで行くという部分、そこに向かってはやっぱり福島町養殖昆布一つになって取り組んで行くという姿勢は必要じゃないかなと思っておりますので、そういう分も意識しながら進めてまいりたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

川合産業課指導普及係長。

○産業課指導普及係長（川合力哉）

現状の集荷方法ですけども吉岡地区・福島地区それぞれ一日かけてやっていますが、吉岡地区の方はほ

とんど入札の関係ですので大型トラック2台で済ませています。

福島地区の方においても大型トラック2台で集荷しておりますけども、福島地区は入札の漁業者と随契約の漁業者がいるわけですけども、同じ日に同じトラックで集荷して、あと運んだ先で全部の箱に名前書いていて荷受けする時の誰々の漁業者さんが1等なんぼ、2等なんぼとかっていう風につけていますので、そこで仕分けされているものだと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

現況がそういう状況で、それを将来的には今集荷の場所を検討するということになっていますよね。

この現況の状況のなかで一箇所にとめるというのの可能性も検討したうえで、新たな施設の検討をするという考え方で今しているということですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

養殖昆布の製品につきましては記載のとおりなんですけど、集荷場所がなく、それぞれの事業主の作業場集荷しに行くという状況なので、今はそういう状況にはなっておりませんが、そこを今の福島漁港の中央倉庫付近を活用するという部分で、これは新たな取り組みってなって進めていくものとなっております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

委員外議員、質疑です。

ありませんか。

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

5ページの2の部分、岩部クルーズの運航の部分。

この文章に書いてある要は乗船前後の滞在時間とアクティビティの創出などを書いてあるのですが、今現在、福島に来られている予約されている方の8割強ということは今年であれば4千人くらいですよ。ここにまだチャンスあるんですよ。今の現状であれば、この8割強福島町に滞在する考え方、町としての何らかの対策ってその辺考えているのかをお伺いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

すみません。1点ちょっとあれですね、予約者の8割、乗船者の8割ですよ。ごめんなさい、失礼しました。

乗船者の8割が函館方面から来るという部分で、せっかく福島町に来ていただくという部分で委員おっしゃったとおり滞在時間とかアクティビティの創出という部分あるんですけど、これは工房との、工房の方の思いもあるかもしれないですけど、これはちょっと岩部構想とは切り離れた段階の話もあるかもしれないという、工房さんは工房さんなりの滞在時間の創出、要は、そこでバーベキューやるだとかそういう色んな仕掛けもあるんでしょうから、そこと向かう方向性は一緒なので、しっかり我々のワーキンググループにも参加していただいて、情報共有しながら進めていくという分は考えております。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

今の部分は意見交換でまたやと思うので、その次に、7ページの部分で昆布養殖ですね。

昆布養殖の部分で、養殖昆布用ブロック施設がこれが現在福島地区と吉岡地区という部分で空きの状況がないという部分であれば、空きの状況がなければ、これ以上の水揚げもないだろうし、もしくは辞めないとこの部分であれば揚がる部分も揚がらないということですね。ましてや、新規事業者があるかないかは別として、入ってきた場合に空きがないので出来ませんという状況起きませんか。

その辺で、今後、空きブロックを新たに作ってその辺も考えていくのか、その辺の考え方とりあえず伺いたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

海を使うということは漁業権ありまして、区画漁業権の中で昆布養殖やっています。ここで今いただいている権利というのが今の状況なので、これから新規着業者がいるから設置したいという分が簡単にいかない。既存の施設の中で推移していくというのが現状で、水揚げについても記載のとおりとなっているんですけど、大体600トンから700トンの間で推移していくというのは今の状況変わらないのかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

今の部分でもう一個。福島地区と吉岡地区とあるのですが、白符地区はどちらの地区になるのか。要は、福島と吉岡のちょうど間ですから、その辺の部分をちょっとお伺いしたい。

もう一個が、働く方と言ったらあれですけどアルバイトですね。この辺ってやっぱり集めるのに今のところ高校生が何人か手伝ってくれたりとか、今後、ここの部分で一番大事な部分になってきますよね。

この集め方としては個人に任せている、要は事業者というか昆布やっている人が個人で今のところ集めていっていると。その辺で町としての協力体制は今後されていくのか、その辺をお伺いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

白符につきましては、福島の管轄となっております。所管というか地区となっております。

それで、昆布養殖の方のアルバイトについてもおっしゃるとおり、各漁家の方々は苦慮しているという状況。町として何かという部分はやっぱり全体的な見方としては、やっぱりアルバイトの確保という部分は行政としても支援していかなければならないでしょうけど、個人漁家という部分にはなかなか行けないという分は認識のとおりだと思うんですけど、できることは対応すると。新潮学舎に貼紙貼ったりだとかこまい話しになってしまうんですけど、そういう部分についての協力という部分は、例えば漁業者から求められたチラシ作ってくれないとかそういうこまい仕事とかもやっぱり我々の方でもそういう分は重要だと認識してお手伝いしているという部分はあったりしています。基本的には高校生の新たな雇用の創出という部分が令和6年度は大きかったのかなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

質疑ありませんか。

熊野委員外議員。

○委員外議員（熊野茂夫）

まず岩部クルーズの方。タタミの件ですけども、これは調査に入った時に岩部村からタタミまでの旧道が存在していたはずなんですよね。そこの調査って、いわゆるそれを通じて調査に入ったというんじゃないんですか。これは今ここのところの文章見ますと、岩部岳の中腹まで一回北上して、尾根伝いにタタミの方に下りて行ったという風な書き方になっているのですが、そこはどうなんですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

実は私どもも素人だったものですから、GPSとかを使いながらという部分のそれを頼りに行ったというのが正直なところでございます。

それで、旧道があったという部分は私担当者として認識していなかったんですけど、または、認識したとしてもそこを案内できる方がいるのかという部分とかも、今ちょっと想像する範囲ではなかなか一緒に行ってくれる方が少ないのかなと思ってまして、機械頼りのGPS頼りの探索ルートと選定となっております。

○委員長（佐藤孝男）

熊野委員外議員。

○委員外議員（熊野茂夫）

まず一度ですね、案内人いるかどうかは分からないけども、高齢化していて相当そのところが面倒な面があるかと思いますが、ずっと当時から聞いていると、タタミなんかは番屋があった時代というのは結構頻繁に大量の食糧とかなんとかは別にしても、当座のものも生活の背負って行ける程度のものは持って往来していたような状況を一つ聞いているんですよ。ですから、そのところを町内のところをやっぱりどこかで居ると思うので、探してやった方がいい。

ただ、とは言ってみても、このタタミの方に手をつけていくか行かないかという判断は、いわゆる自然をそのまま残していきたいという状況であれば道立自然公園にもなっていますので、どうなのかなと。

いわゆるあんまり人を入れてしまうと荒廃していくという懸念もあるので、その辺のところは配慮しながらということになるかと思います。

もう一点お聞きしたいのは、展望台の件です。あの岩部から繋がっている今の道道の所というのは、あのトンネルが抜ける前というのは、今のセンターあるところから山越えてトンネルの入口の所、いわゆる昔の人方から言わせるとシラヅカリと言うんだけど、あそこにもいくらかね番屋だとか住んでいる人方が居られて、そのルートで抜けて行った経緯があるんですよ。ですから、もう少し調べられたらいかがでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

事務的な調べ方になってしまったんですけど、せっかく滞在とかそういう岩部活性化という部分はあるので、やっぱりおっしゃられたとおり、まずはどういう方が知っているのかという部分は掘り下げて、岩部クルーズの代表の方も結構岩部のことも勉強されていて、色々そういう部分の情報とかも得ているかもしれないし、または住んでいた方とかとの意見交換とかしたなかで何か手掛かりあるのであれば、ちょっとルート行ってみたいなと思って今思ったしだいです。

それと、岩部の町中から山を通ってタタミに行くという部分、ルートと言ってもやっぱり何か遊歩道つけてとかという状況にはならないとは思いますが、しっかりそこで行けるような状況があって、タタミに付けたとなると逆にクルーズ船が、ちょっと素人ですけど青の洞窟まで行けないけどタタミまで迎えに行って帰ってくるというそういう手法とか様々なことが展開できるのかなという部分もありますので、委員おっしゃったとおり新たな知っている方とかも模索してみたいなとは思っていますので、よろしくお願いします。

○委員長（佐藤孝男）

暫時休憩いたします。

（休憩 11時09分）

（再開 11時20分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

熊野委員外議員。

○委員外議員（熊野茂夫）

昆布の省力化のところ。いわゆる今の集荷施設になるのかな。集荷と初期的な保存というか出荷前までの保管施設という風な考え方でいいですかね。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

そのとおりでありまして、単純に出来た製品を持ってくる部分もあるんですけど、品質の保持という部分も含めた対応で検討してまいりたいと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

熊野委員外議員。

○委員外議員（熊野茂夫）

そのレベルの話なのか、施設の規模ですね、どの程度のレベルの施設という風にして考えていくのか。前段のさまざまな収量だとか昆布の市場の状態、いわゆる供給と需要の問題も含めてそのような状況を見ると、これは作れば結構いい状況でもってこれから推移していけるのかなという状況が見通せるんだけど、その時にただ、今言ったようなそのような集荷と出荷前の保存施設という考え方をするのか、ある程度先ほど課長もちょっと言われたけども空調の問題も含めての一定の施設の規模を考えるのか、その辺の考え方はどの辺まで考えていますか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

空調までの設備は考えておりますけど、収量は今のこの記載のとおり700トンくらいの大体推移しているということで、そこにあった規模を我々想定はしておりますが、ただ、漁協さん、漁業者の思いもありますので、行政だけの思いを押し通すんじゃなくて皆さんの意見を聞いてという部分になろうかと思えます。それが、新年度予算には盛り込んでいませんけど、集まった中で色々議論して煮詰めていって後年度に建設に向けたという流れになろうかと思っております。

それと、施設には当然管理する方も必要でしょうし、今の漁協の事務所も相当老朽化してますので、そういう部分も含めた議論になっていくのかなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長（佐藤孝男）

いいですか。

それでは質疑を終わります。

次に、意見交換を行います。

小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

クルーズの件でお聞きしますけど、乗船客のアンケートで一番が食べる所が欲しいだったと思います。

今、今年から例えば食べる所を作るとかそういうことはあるんでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

現時点では新年度から何か飲食のものという分はございません。ただ、先ほど説明の中でもちょっと申したんですけど、その交流センターの裏の2件を我々の構想であれば、そこをリニューアルしながら売店だったりとか軽く食べられる所とかも想定しながらの購入とか取得を目指したもんですから、そういう部分は継続してアンケートの意見に対してはやれることはやっていきたいなとは思っておりますので、今現時点では直ぐスタートするという分にはなってございません。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

岩部クルーズ、観光でも何でも一番気になるのが岩部地区の安全対策。それと、次にやはり岩部地区の先ほどお聞きした河川の整備ですね。あそこについてはですね、課長「土砂とか木とかありまして」って言ったんですけど、私達議員もですね岩部地区の水源を調査しに行った時からあのような状況であったやに思います。そうであれば、一応、世帯というか災害的なあれだけ河川の側面が立ってますから、急な鉄砲水出てもある程度対応できるんでしょうけども、やはり上流部が自然河川なので鉄砲水出た時にはかなりの底引きと川の底を傷めることもあるので、これはやはりその観光に使う・使わないよりも、建設管理部なり何なりに早急にそれは対応してもらおう。その対応して更になった河川を見て、どう計画するかというのも必要だと思うんです。

それからもう一つは、今、岩部地区のそれぞれの遺産相続でなかなか世帯主の確認というのはとれない

かもしれませんが、まず、トレーラーハウスでも何でも今建てるにしても何をするにしても、やはり地理的なものを分かりやすい状況でしていかないと、次のステップにできないと思うんですよね。

だから、そこら辺もまず色んな考えあるんでしょうけど、私はそこら辺を進めていくべきかなと思うんです。そのためにですね、やはりそれから計画がスタートかなと思うんですけど、その点を2点ほどまずお聞きしたいなと思います。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿一彦副町長。

○副町長（小鹿一彦）

私の方から1点目の岩部地区の安全対策についてですけども、先ほど申し上げましたけども、今は浄水場管理している建設課、それから岩部クルーズ管轄している産業課、そして、防災無線等もありますので総務課内部で検討しているのは、今誰も居なくなった状態での万が一備えた防犯対策としてカメラを設置したらどうかという話しも今検討中でございます。あと2点目は産業課長の方から。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

2問目の地理的な分かりやすくという部分はやっぱりそのとおりで思っておりまして、岩部クルーズだけの話だけさせてもらっても、やっぱりクルーズに予約した方が岩部の交流センターまで辿り着けなくて、どう行ったらいいんだという部分とかもありますし、岩部地区の中でもどのような状況になっているかという部分は、やっぱり周知している状況はございませんので、そういう部分もやっぱり今後の未来も含めながらこういう状況になるという部分も含めながら、現状もしっかり地理的な部分も含めて周知していかなければいけないなと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

次に昆布の養殖の方ですけども、ちょっと気になるのが、今クミアイ化学さんと共同で事業をやっているわけなんですけども、先ほど養殖昆布のロープに私素人ですからよく分からないんですけども、その7キロの熔融スラグをつけて浮かせてやるということなんですけども、養殖の昆布というのはやはり光で光合成しながらやるんで、その初期成育の時のロープの水深の位置とか成育時の水深の位置とかそれぞれ変わるんですけど、この熔融スラグ7キロの場合ですよ、私よく分からないですけども、溶けて鉄分出していくという風に思うんですね。そうであれば、その重量は変わってくると思うんですけども、そこら辺どう把握されて使うのか。

それと、この熔融スラグについては増毛町で海岸線に熔融スラグ鉄鋼熔融スラグを入れて、スラグだけじゃなくて何か培養土みたいなのも混ぜながらやっているという成果があるんですけども、それはやはりかなり入れて半永久的に残るかということとそうじゃなくて、やはり溶けているんですね。溶けて、それが生産性を上げている。確かに初期成育は早いでしょう。第一酸化鉄がその養分があって、それが初期成育に反応しているということなんですけども、そういう使い方と今みたくロープにつける使い方というのは、どこからデータを持って来てやっているんですか。あくまでも実験的なものなんですか。

ある程度成果を見通したなかでの推進事業ということになるのかなと、しなきゃならないんじゃないのかなと思うんですけども、そこら辺を教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

川合産業課指導普及係長。

○産業課指導普及係長（川合力哉）

委員ちょっと説明不足のところがあるんですけども、増毛町でやっているのは鉄鋼スラグです。鉄を作る時に出るカスを集めたものが鉄鋼スラグ。福島町でやっている熔融スラグというのは、ゴミを燃焼した後に出るカスを集めて砂状にしたものを熔融スラグと言って、福島町でやっているのは鉄鋼ではなくて熔融スラグというもので実験しております。

それは砂状になっているものですので、それは無くなることはなくて、自然的には減ってはいくでしょうけども、18カ月もつと業者さんからは聞いております。

あと、どこかで実験しているのかという質問ですけれども、静岡県で目的は昆布ではないですけども要は磯焼け対策としてモク類とかそういうような雑草のような海藻、要は磯焼けが解消されればいいという目的でやっていますので何かしらの海藻が生えればいいという目的でやっていますので、静岡県ではその実験をしてある程度成果が出ているところです。以上です。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

先に岩部の活性化のところで先程来展望台の話が出ていましたけども、話を聞いて割に早い時期にこの展望台を手掛けるにいいのかなと思っているんですけども、去年の春にまだ葉っぱが出る前に岩部の橋渡る前の駐車場といいますか、そこから見た感じある程度輪郭はできているんですよね。斜面というか斜めに上って行っているなという風な感じで、何年前にそういう事業をしたのか分かりませんが、大した景色がいいんだと言うんだけど、どの程度の景色がいいのかちょっと分からないんですよね。突端がどこまで行っているのか分からないんですよ。だからその辺もし分かっていたら教えてください。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

春先とか秋になると、やっぱり下から見ると歩けるような道があるというのはおっしゃるとおりで、昔は軽トラが歩けたという道路ということで私も先輩達から聞いているところです。

その部分をしっかり再整備していくという場合もあるし、崩れ方が激しいのであれば先ほど申したんですけど民地の部分の活用という部分も出てくるでしょうしという部分で捉えているところです。

基本的には人の土地を通らずに町の道路を通れば一番いいなという部分で把握していますけど、それは調査も必要なかなと思っております。

それと、上の方に上がっていくと旧展望、側はあるんですけど岩部展望台って言われていた白い建物がまだ存在はしてまして、そこからちょっと漁港側じゃなくて民間側石川さんの方の湾の所とかも見ても、やっぱり青い海の景色だとかそういう分が一望までは行かないですけど、それこそ資料にも書いたんですけど枝落とし若干、木の伐採することになると保安林の許可とかで駄目でしょうから枝を落とした段階で見られるようにはなるので、100パーセントにはならないですけど、いい景観という部分は目で見られるような状況までは作れるのかなという分でも私も現地行って確認してきて、これの事業については盛り込めるだろうなという部分で判断しております。

それにしても、やっぱり枝落としという部分は若干いいんじゃないのという上部組織からももらっているんですけど、しっかり保安林の観点もあるので伐採には注意していかなければならないなとは思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

前の日に函館に泊まるというお客さんの大体のルートがそういう風に分かったという風なことから、いくらかでも前泊を函館のものをこちに引っ張ってくるような状況、例えば先ほどから出てますけども地権者の問題あって、それを解消なり何なりをすとか、それと今の展望台に上って時間をその見学するそういう時間帯もあることによって、前の日からそういう風なものが地権者と話しがつくつかつかないかは分かりませんが、することによってクルーズの人口も増えるだろうし、町内の人口も滞在人口も増えるという風なことだと思います。

それから、養殖昆布の関係ですけども10ページに絡んで、先ほど中央の倉庫、確かに小さい頃から、この頃結構大きい倉庫だなという風なもので、奈良さんのスタンドが無くなったものだから国道から丸見えになっている状態ですよ。だからそれと冷蔵庫の関係もあるから結構な面積あるんだべなという風な感じしておりますが、先程来、福島市の昆布業者さんは3グループぐらいに分かれているという風なことで、そういう倉庫を作ることによって便利もよくなる。だから、そのグループを3つのものを2つとか1つにするような条件といいますか、そういう風なものを組合さんと業者さんと町の方とそれを今までもきっと話ししていると思うんですが、そういう風なことを話しをしながら話しを進めて行った方がいいと思いま

すし、また、シーウィードの業者さんも入れ物が困っているわけですね。温泉行ったらに見ることがあるんですけど、もういっぱい入っていると入口まで入っているような状態。

だから、入れ物が必要なわけですね。入れ物といいますか倉庫が。だから、そういう風な業者さんもここに一緒にやれるような考え方も必要なのではないかなという風に思うんですね。だから、漁組さんとは違うと言うかもわからないけども、せっかく町内に来てくれてそういう昆布の仕事をしていますわけですね。だから、それで建物なり入れ物困っている状況がずっと続いているわけですね。だからそういう風なものも、そういう計画があるのであれば、そういう風なものを交えながら前に進めて行かないとないんじゃないかなと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

どうもありがとうございます。

まずは1点目の岩部の展望台については、私も役場入った頃に、たぶんもう出来たかその当時くらいに出来て、我々も若い頃よく行かせてもらいました。

ただあの頃はまだ、規模そんなに高くなくて、行くと本当にあそこから白神の方がずっと見れる海岸線が見えるのが綺麗だなという形で結構若い人達に人気があったのかなと思います。

ただ、ほどなく木が大きくなってなかなか道路も厳しい状況の中で、今はあまり行く人もいないのかなと思っています。

それで、岩部活性化についてはですね、我々今せっかく青の洞窟を見に多くの方々が年間乗船されておりますので、2千人から3千人近い人が乗りたいという形で、予約はまだあります。ただ、実際乗れる確率からいくと、いつも言ってますけど4割5分ぐらいの確率でありますので来ても乗れない方もいらっしゃると思いますので、我々としてはせっかくこれまでなかなか福島を目指して観光で来るということが少ないなかで、今第一歩を踏み出させていただきましたので、是非この来た方々にもう少し時間軸を福島で滞在していただく。そうするとですね、例えば先ほど食べる所がないという話もありましたけども、例えば今レストランの方ではアワビカレーだったり色んな形でそれを食して満足している方々がおりますので、岩部で時間軸をつくると当然福島で食をしたいという時間になってきますので、そういったものをまた増やしていく。

あとは、もう一つ河川の話も私は今子ども達がなかなか川に入ったり海に入ることが厳しい環境にあるのかなというなかで、安心して海だったり川に入る環境を、岩部というのは条件として私は揃えているのではないかなと思っていますので、まず少し、気楽に川に入って川魚を追っかけけるような姿が作ってあげられないのかなという気がしていますので、そういったものを是非、せっかく今絵はできましたので、この絵をどういう形で我々が立体化していくかだという風に思っていますので、そのところは色んなクリアしなきゃない問題はありますけども、ただ、夢は描きましたのでそれを実現するには我々がせっかく形を取れば、一つひとつ実現していくと思います。

それと昆布養殖については、なかなか今の組合の状況を考えると難しいところがあります。部会が分かれている、入札だったり随契だったりという形。ただ、私は今若い人達に問題提起、第一世代から今若い人達に相当代替わりしています。だから考え方も若い人はやはり進歩的な少し、我々に反応してくれる方も多くなって、前の人方はやっぱり自分がやってきたことがベストだという、ちょっと頑ななところがありますので、いいものだとは分かっているもなかなかやりきれないところがありますので、私は今回は問題提起をさせていただいたと。要するに若い人達にあなた方がここでもう30年養殖昆布をやっていくには、今のままだと大変になりますよということの問題提起をさせたつもりでありますので、ここは私はできれば組合、漁業者が主体でしっかりと私達の問題提起に対して応えを出していただければ私は有難いなと思っています。

そして、その一つとして我々が協力できる場所としては、管理用倉庫をきちっとすることによって品質向上なったり今自分達が困っているところの解決策に繋がっていくという私の思いもありますので、そういったものをしっかり組合と連携しながらやっていければと思っていますので、まずはこれも第一歩踏み出し始める形でありますので、ただただ、やりきるにはかなり問題もありますけど、ただ、今水産庁自体も国の方もこれまで漁港の中であまり建物だったり色んな漁港利用が制約ありましたが、今海業と

いう形であるべく漁港の中で稼ぎなさいということを言われていますので、まず今ある古い倉庫を建替えて、漁業者がしっかりと自分主導で値段を決められるようなものを我々として作ってあげればいいのではないかと考えていますので、ここはただしっかり組合がリーダーシップを発揮していただいて、まず漁業者をまとめることが私は第一でないのかなと考えていますので、そういったものを含めてまず今年、今我々もしっかり問題提起はさせていただきましたので、その問題に対してどう向き合うかということを令和7年度を一年かけてまた色々と前進できるようなこと取り組んでいきたい。そのように思っています。

それと、シーウィードの関係については、2月に会長さんが当初会長の思いでシーウィードはスタートしたという風に私は思っています。シーウィードの会長さん元社長でありますけども、福島の昆布に惚れて是非この福島の昆布を使いたいということで吉岡の今我々の施設を活用しながら昆布の生産「食べる昆布」ということで、今は何か結び昆布を盛んに作っているようでありますので、シーウィードさんもそういった場所といいますか、まず加工する場所も含めて色々倉庫も含めて、これから事業を展開していかなくか色々と求めてくるものもあるのかなと考えてますので、今は会長のお別れ会が2月にありますのでそこに顔は出しますけども、新しい社長さんと何度か面会はしておりますけども、やっぱり先代の思いと新しい社長の思いも変わってくるのかもしれないので、我々としては4月くらいにもう一度新たな社長の方と今後の対応なり方向性をしっかりお話しして、我々としてなるべく今のやつを継続しながら発展性を持たせて行っていただければと。

やはり、なんだかんだ言いながら雇用がやっぱりシーズンになりますと相当数生まれておりますので、そういったものの守るのも我々の努めだと思っていますので、またそういった形で少し経過を踏みながらお知らせをしていきたいなと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

岩部の関係については、今回の火事で2件、今度は岩部に住まないという状況になるわけですよ。前回の委員会は一年前に対応して、その時の基本構想に対する基本的な考え方として関係機関と一緒に地域の住民の対応ということを強調していたと思うんですね。そこが、今の現況は大きく私は変わるんだと思うんです。この後、また従来住んだ方が簡単に戻ってという状況でもないですし、私はその辺も基本構想最終的にはそのまとめの部分については、その辺の現況も含めてもう一度精査して対応していかなくやないということを指摘をしておきたいと思います。

そのうえで、3つの計画の部分で展望公園が一番手っ取り早く対応できる可能性、もちろんその漁港からの距離とか含めて考えると一番取り組みやすい部分だという風に思いますし、可能性としては早く対応できるんだという風に思いますので、その考え方については私はそのとおりだと思いますので、極力そこを中心に早めに新年度から対応してもらいたいと思います。

併せて、今回2件の部分が焼失することによって、今後、周辺整備として2件の部分については交渉に入るということですが、ほかの橋から河川なった部分の残る部分についても現況的には私はもう一回、例えば登記までは別としても所有者の状況とかなんかを調べておく必要があるんだと、それは周辺の河川の関係の調査を含めても、当然その問題が提起されるわけですから、今の段階からその辺の構想も入れて対応していくべきだろうと思いますが、まずどうですか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

岩部地区については本当に、今回我々も本当にこのような状況になるとは想像もしていませんでしたけども、ただ、住む人がいなくなったから岩部が変わってくるというか変化はしますけども、ただ、先般も石川会長のところお伺いしてお見舞いもししてきましたけども、私以前に何度か岩部に癒しを求めて行って会長とお話すると、やはり会長はですね、我々がクルーズを運航し始めて岩部に人が戻ってきたということをお大変喜んで、賑わうことに関して我々はやはり住んでいる人としては歓迎するんだということのお言葉をいただいていますので、私はそういったこれまで住んで守ってきた人達の思いを繋いでいく役割も私はあるんだと思っているんですね。住む方は居なくなりますけども、その地域は無くなるわけではあり

ませんので、そこに人が住んでいたという形跡は残るわけですので、我々はしっかりそこを新たに福島に訪れる方々にも伝えていく義務があるし、ここに人が住んでいたという形跡は残っているわけですので、そういうのはしっかり思いを計画に反映していきたいという風に思っています。

そして、地権者については当然、今は福島川の方の拡張の関係で、やはりその地権者の問題でなかなか事業が展開できないという苦労も如実に今していますので、やはり土地を取得するにあたっては時間が遅くなるだけ面倒くさくなると思いますか、相続者が増えていく関係になりますと、だんだんやっぱり土地を持っている人からだんだん思いがまた変わってくる方もいらっしゃると思いますので、このところをはっきりとスピード感を持ってやっていく必要があると思いますので、できれば私はですね、石川さんと今火災になった所は別にしても、まずはクルーズの事務所であります背後地、麻生さんが住んでいた所とか元の花田会長さん、うちの近藤君のところもありますので、そういったところは意外とはっきりした部分もまだ残っているんだという風に思っていますので、そういったところは早めに土地処理をして、先ず私はその件を事業展開できれば一番早いのではないのかなと。

その後には旧学校跡地に繋がって行く土地もありますので、色んな展開ができるんだと思っていますので、そういったことを先ず早めに行きたいという風に思っていますし、また河川の問題についても難しい問題はあるにしても、私は今の現状で一番の問題はやはり草がボーボー生えていて、あまり川に入りたいという条件ではないんですね。まだ、例えばそれを一つ整理してもらっただけでも全然違うんですよ。石ころが転んで水が綺麗に流れていけば、そこに足を突っ込む・手を突っ込むということが出来るし、あとは岩部漁港行かれて分かると思うんですけども、今石川さんが使っている船揚げ場なんかは本当に、船揚げ場としてはよろしくないんですけども、白い砂がほどなく浅瀬を埋めて、子どもが小さい子どもを隔離してできる漁港なんですよ。本当は漁港としては好くはないですけども、あそこは本当に子どもさん連れて来て家族で何家族も泳がせているような状況を私も何度か見てますので、そういった今あるものをしっかり活用しながら岩部地区の滞在を伸ばすことは私は可能だという風に思っていますので、まずは第一義に岩部の方々の思いをしっかり大切にその計画を作っていく。そういう今思いであります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

基本構想は今後まとめるにあたっては、展望公園かかりやすい、あと、周辺の整備が対応しやすいということがあるんですけども、私はその河川の改修の部分もできるだけ構想を練って基本構想の中にしっかり位置付けて、それをもって関係官庁を含めて交渉することがあとに繋がるんだという風に思いますし、特に色んな全国の状況を見ても、河川で今町長も言っているように、子ども達の対応含めて対応するという部分については、意外と柔軟に構想をしっかりとすることによって、受ける側の関係官庁も対応してくれるというにそういう時代変化は私はあるんだと思いますので、何か後回しにみたいなことではなくて、この構想自体でしっかりその辺を説明することが大事なことだと思いますので、対応をしっかりお願いをしたいと思います。

それと、民家が買収の部分でたぶん麻生さんと花田さんの所2件だと思うんですけども、時代の変化で多分その古い住宅なわけですから、特にトイレの関係なんかというのは全く今の時代には合わないですし、観光客云々ということになると当然その水洗化含めて私は改装も含めて考えていかなきゃないんだと思いますし、新たに対応できる気が付いた部分、構想の中でどういう役割をするかという部分を出来ればその基本構想の中である程度出来る限り示していくということで前に進みやすいことになるんだという風に思いますので、その辺についての基本構想最終場に向けての考え方をもう一回確認をします。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

先程来申し上げましたとおり、私どもとしてはしっかり計画っていいですか絵を描かせていただきましたので、その辺を我々は実現に向けて取り組んで行くというのはそういうことを国なり開発の方にしっかり訴えかけて、これによって多くの人達が魅力ある岩部地区に訪れるんだということを訴えかけることによって、河川だったり道路も含めて整備というのは可能なかなと。

ただ、これまでも多少ちょっと心配されるのは、これまでやはり住民がいたことによって道路整備とい

うのは多分必要だというところが、住民がなくなった状態でどうなのということはちょっとあるんだと思いますので、我々はそれに代わるものとして代わるという言い方は変ですけども、こういった構想がしっかりあるんだと。その中に多くの方々に来て滞在するんだと。そのためにこういった道路なり川の整備が必要だということを訴えていく必要があるんだと思っていますし、その一つの私はこの構想がツールになるのではないのかなと思っていますので、まずはこの構想をしっかりと固める作業をまず今のところはまだ、本当に絵に描いた餅でしかありませんので、その絵をしっかりと描いて、餅を搗くような形でしっかり我々はやっていきたいと思っています。

それにはやはり町全体で盛り上げていくということが私は大事だという風に思っていますので、当然、商工会なり観光協会そして漁組なども巻き込んで、色んな形を協力いただきながら町としての必要性を機会ある毎に訴えていくつもりでもありますし、当然議会の方からもまたしっかりと応援してもらう形になるんだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

昆布の関係ですが、多分その天然昆布の状況が異常気象の影響が大きな要因だという風に思うのですが、獲れないことによって単価が上昇して現況は8億ということなんだと思います。

私もずっと漁業組合の方から資料をもらいながら見ているんですが、平成11年に9億を超える状況、あるいは平成13年に8億というそれに次ぐ今回の金額的にはそうだと思う。前段の数量的なものは分かりませんが、多分その数量が違う状況があるのかなという風に思うんですけども、背景としての地球温暖化の影響での天然昆布の状況変化というのは、私はこれまた長く続く形になるんだという風に思いますので、養殖昆布に期待する部分というのは大きなウェイトに私はなっていくんでないかと思うんですね。

そういった背景を踏まえて、今後の対応をどうするかという部分で何点か問題点あるんですが、その一つの部分としては、やはり組合が出来れば一つになって取り組むというのが一番、少なくとも私は福島と吉岡、吉岡の方は一つになっているんですが、福島側の3つの部会の方をなんとかそこをまとめていくという方向の中で今、構想的に対応しているその昆布の保管する施設の対応ということもあるわけですから、何とかその辺の努力を、多分若い人の構想の中には私はあるんだと、残念なのは親子の会話というか、これは自分も含めてもなかなか思うようにはいかないということは分かるんですけども、なんとかその辺も解消するような方向で、今現状から将来に向けてどうするんだという視点に重点を置いて、町側の方も色々町長中心に説得をする、あるいは組合長含めた対応の部分のなかで昆布業者の方に説得するという手法を積み重ねていくより無いのかなという風に思いますので、その辺を町長中心にお願いしたいと思いますが如何ですか。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

昆布についてはなかなかそのこれまでの経緯といいますか、色んな形のなかで分かれてきたと。

まず一つは漁組自体が二つに分かれていて、吉岡は一つの部会でまとまっていますが福島の方は三つの部会に分かれている状況の中で、やはり一番の問題は好き嫌いもあるんでしょうけども、入札制度と随契制度の中でなかなか折り合いがつかなくなったのが分かれている原因の一つにもなっているのかなという気がしますので、そのところは先ほど言いましたとおり、私も若い人達に結構浜で話しをしますと、あんまり先代のようにこだわり持っていないんですね。先代はやっぱり自分のやってきたことに対して、何て言いますか変な自信を持っているといいますか、こだわりもあってなかなか今からそんなことの変えることはできないよみたいな、でも今の若い人達は吉岡福島隔たりなくお話しもしているようでございまして、そういった意味ではこれからは変化できるのではないかなと思っています。

そして、私がこの一つの例えば今、うちの方の課長から提案しております倉庫一つがですね、そのまとまる一つの物になる可能性があるのではないのかなという風にちょっと今捉えているんですね。だからそれを一つのタイミングとして組合の中で部会も一つにまとまっていて、そういう施設を養殖部会全体で使うという形、組合で使うということになるんですけども、そういう形に私は導いていける一つの事業ではないのかなと思っていますので、是非、組合の方もやっぱりその事業を欲していますので、そういった

意味でしっかり我々も組合長なりそういった方々と相談し、役員も含めてなんとかそれを活用するためにも一つにまとまっていくことが一番ベストだということを何とか仕掛けていきたいと思っています。

ただ、人の思いですから、我々があんまり強制的にやると反発するのもありますので、そこは上手く組合としてトップなり役員もいますし、それぞれの部会の中で部会長もいますのでそういった方々と相談し、ただまずは第一義として若い人達が今少しその気になっていますので、その機運を組合の内部の方でしっかり調整できるように我々も応援というか支えながら、なんとかこれを実現して生産に結びつけていきたいと思っていますので、議長おっしゃるとおり、何年か前に9億いったのは本当にあれは付録みたいな値段ですから、次の年にガクッと落とされているんですね。それは買い屋さんがその年モノが欲しくて値段をただつただけであって、次の年に帳尻をちゃんと合わせているんですね。データ見てもらえれば分かりますけども、ただ、今回の場合は本当に天然がなかなか厳しいなかで養殖が安定した数量として高い値段をつけてくれたということが2億3千万に響いているのかな。

ただ、これからは天然はやっぱ厳しくなると思うんですよね。だから、ある程度高値で推移していくのは間違いないのかなと。ただ、我々もそうは言ってもアキレス腱がないかという、やっぱり気温上昇とともに養殖は種を天然昆布から2年昆布から採っていますので、そこに今、組合のお話を聞くとダイバーさんと潜らせてかなり苦労しているんだということがありますので、我々もそういったことを早め早めに対策として試験研究機関なり色んな機関の中で時代が進化しているなかで、従来のやり方しかないのかとかそういうことを組合と相談をしながら、なるべく安定した生産が続くようにやっていきたいという風に思っているところであります。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

今までも多分その部会それぞれと町長含めた担当課との話し合いとか、もう一つは吉岡含めて4つの部会の代表が一堂に会して、今のような話をする機会というのは私はあまり無いんでないかという風に思うので、どうか町長音頭を取ってですね、そういった場面を作って今の現況と将来に向けての町の考え方を含めてお話しをして、そういう方向で動くような形で進めてもらいたいとお願いをして終わりたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

委員の皆さんに申し上げます。

このあと委員外議員の意見交換もありますので、午後からとりまとめもありますので、一つ、まだ1時間ぐらいはかかるとしますので、午後からも開催したいと思いますので、どうですか。

（「このまま続けていいと思います。」）

いいですか、続行して。

それでは、委員外議員お願いします。

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

先ほどの岩部クルーズの件で、要は乗船前後の滞在時間及びアクティビティの部分で、ここにまだ岩部クルーズの予約者8割という部分で、ここはまだ未来あるというか、まだここに創出できる部分あると思うんですよね。この8割の内、何割かでも取り入れることによって町内において少しでも活気があればと思うんですよね。その部分で要は今の現状としたら宿泊がほとんど函館の方で行っているスタイルが多いという部分を少しでも、例えばですけど今できました新潮学舎のゲストハウスに泊めることによって、要はクルーズが運航できるような形というか泊まってそのまま朝から行けると。

その部分で泊まるようなところに少し町としての支援ですね、要は、例えばクルーズ乗るのであれば、朝乗るのであれば宿泊施設に対しての援助をしてあげますよと。クルーズを乗ることによって町内で買物した場合、例えばいくら引きのものを出して買ってもらえる。もしくはトンネル記念館、横綱記念館等も踏まえたパックを、この辺の検討も、温泉もそうですね。この辺も色んな意味を踏まえて、要は工房さんだけでなく商工会さんと検討しながらこの辺の援助体制考えていくべきだと思うのですが、その辺を町長にお伺いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

現状ではですね、岩部クルーズそのものの乗船率は先ほど言いましたとおり4割5分ぐらいですから、乗れないで帰る方もいらっしゃるし、当然函館まで来て、次の日時化しているから乗れないという形でそのまま帰られる。ただ、福島まで来て帰る方も私は何人か見えていますので、そういった方々の時間も含めてですね、また当然先程来乗られた方がいかに福島でもう少し時間を費やすかということは、我々も観光協会なり商工会とも含めて展開はしていきたいと思っておりますので、まずはしっかり我々が応援するのも応援といえますか、そういった生の水を出すのもいいですけども、やはりそういった関係者がまず自助努力としてどういったことができるのかというなかで、我々としては応援できるものは応援したいという風に思っておりますので、まずはしっかり工房さんを中心に観光協会含め、当然また当事者である商工会含めて意見交換をしながらどういったものができるのかということを展開していきたいという風に思っておりますので、ただ、何せ最大乗れる数というのは決まっておりますので、なかなかそれ以上の増やすということは船を増やすぐらいしかありませんので、今言ったようにせつかく来た方々が今でいくと大体2千人から3千人の方がいらっしゃいますので、そういった方がどう時間を延ばしていただけることに関して、また我々としてもちょっと知恵を出して行きたいと思っておりますので、また、私どもは先程来もおっしゃったとおり乗れない方でもやっぱり福島に足を運んで来る方もいらっしゃるんですね。そういった方々にもう少し岩部地区で見ていただく所を増やしていくとか、福島町内で食していただくということは可能だという風に思っておりますので、そのところはしっかり関係機関と連携しながら知恵を出してやっていきたいように思っているところです。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

熊野委員外議員。

○委員外議員（熊野茂夫）

大体もう出尽くしているところなんですけど、ただ一つだけ心配事がありまして、今ですね岩部地区の二人の方がおそらくあそこに住むようにはならない。いわゆる出てしまうということになってますと、道道岩部線いわゆる道の管理になってますよね。そうすると、あそこに住人が事業の事務所があるにしても一人でも二人でも住居があつて、いわゆる住人がいるということであれば、これは簡単にはそう外すことはできないだろうと思うんですけども、この道道の管理ということも含めて、道のほうの考え方も変わる可能性はないんですか。

もう一つは、それこそ女郎ヶ岬からあのトンネルから例の土砂崩れになって土留めしてあるような状況のまんまの道路の問題が、今のことも含めてもし外れるようなことがあると、なかなか難しい状況になりますよね。ですから、岩部を開発することと同時にその取付の入口の所での手当てというのは、ひょっとすると住人が居なくなることによって最優先事項になるのかなという気もしないでもないんですが、その辺の考え方はよく私のほうも分からない部分がありますので、考え方をお聞きしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

先ほどの答弁でも少し打たさせていただきましたけども、我々も少し懸念しているのはそのところがあります。当然、道道とはいえ生活道路でありますので、本来道路は生活者のために整備するというのが基本でありますので、その所で生活する人がいなければ、果たして管理する必要があるのかということが当然問われてきます。

ただ、我々は今浦和地区がしっかりありますし私の塩釜もありますので、そういった意味で必要な道路でありますし、またもう一つは岩部の石川さんとも話しているんですけど生活はしなくなるけども、生活の根拠はあそこですと。要するに漁はするということは言ってくれていますので、多分、色んな意味で船揚げ場に船もありますし当然倉庫には漁をする道具もありますので、そういったところで別に寝るところだけがちょっと変わったというだけなので、全くゼロではないんだという風に思っていますし、また、もう一つはやはり我々が今岩部構想の中で少なくとも岩部クルーズを運航して、これだけの人が福島を魅力に訪れているということは、これは当然生活道路とは別に観光道路という言い方がどうかは別にして、

我々としてまちづくりとして今欠かすことができない場所がある所に道路がないというのはおかしいでしょという話しは、我々これから訴えかける一つの大きなポイントになるのかなと思っていますので、そのところは当然また道議の先生、国会議員先生含めて地元選出の先生がいらっしゃいますので、そういった方々の力を借りながらしっかり訴えていきたいと思います。

また、先般も開発建設部、道のほうの関係のシオタ部長なんかともちょっとお話をさせていただきましたので、機会あればまたそういったのもしっかりと我々の思いを伝えていって、今と変わらない整備をしていただくようなことはやって行きたい。そのように思っているところであります。

○委員長（佐藤孝男）

いいですか。

以上で、調査事件１４ 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についての質疑及び説明員との意見交換を終わります。

説明員の方は退席をお願いいたします。

ご苦労さまでした。

暫時休憩いたします。

（休憩 １２時１４分）

（再開 １２時１４分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、調査事件１４ 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についての本委員会の意見の取りまとめを行います。

暫時休憩いたします。

（休憩 １２時１４分）

（再開 １２時１８分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、休憩中の「論点・争点の整理」を基に、問題点やその対応策などの討議や意見交換を行いました。そういうことで、委員長に一任ということでもありますので、よろしくお願いいたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております調査事件１４ 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についてに関する本委員会意見の取りまとめ及びその調整については、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、調査事件１４ 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況についてに関する本委員会意見の取りまとめ及びその調整は、委員長に一任されました。

次に、３のその他について、何かございませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ないようですので、以上で、本日の案件の調査はすべて終了いたしました。

これをもちまして、経済福祉常任委員会を閉会いたします。

どうもご苦労さまでした。

（閉会 １２時２０分）

福島町議会会議条例第157条の規定により署名する。

経済福祉常任委員会委員長 佐 藤 孝 男